

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

映画上映後、評論家の佐高信氏（著書『中村哲という希望』）登壇!!

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

3/21(土) 14時00分～16時30分 参加費1,500円

(30分前より受付・開場)

学生 障がい者1,000円/高校生以下無料

会場：一橋講堂ホール

後援：千代田区

*千代田区民在住の方は300円引き

千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内

主催・問：一般社団法人 日本社会連帯機構・酒見 (☎090-4749-2705) *受付平日10:00～17:00

当日受付先着 500名



医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り◎室井滋 朗読◎塚本晋也

写真映像提供◎ベシワール会/PM S
企画・提供◎日本労働者協同組合(ワーカーズユニオン)連合会センター事業団
一般社団法人 日本社会連帯機構
製作◎日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は「現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと」である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



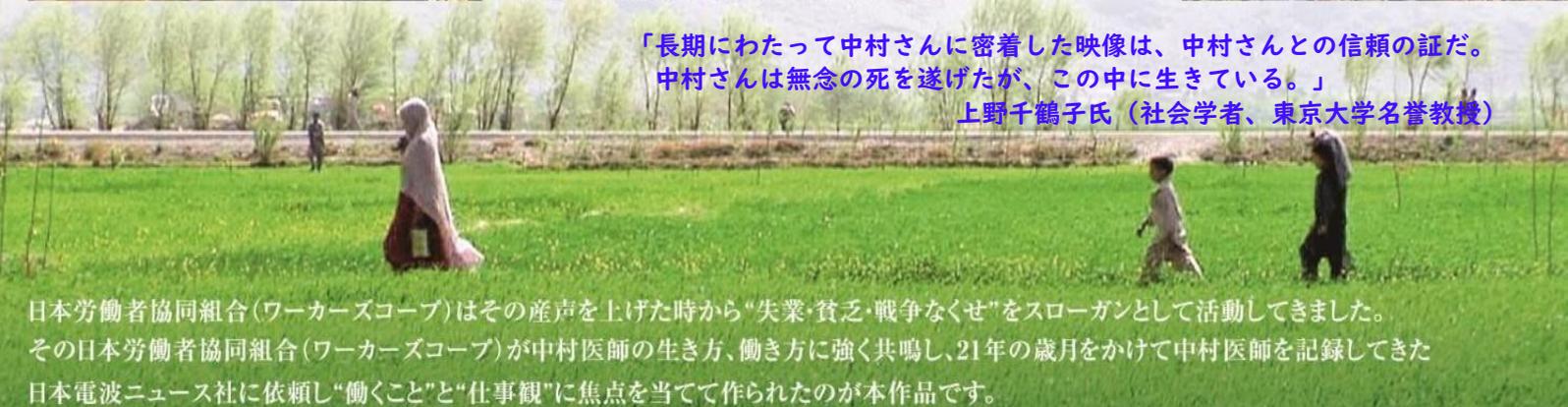
そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない「荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」

「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」

上野千鶴子氏（社会学者、東京大学名誉教授）



日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）はその産声を上げた時から「失業・貧乏・戦争なくせ」をスローガンとして活動してきました。その日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）が中村医師の生き方、働き方に強く共鳴し、21年の歳月をかけて中村医師を記録してきた日本電波ニュース社に依頼し「働くこと」と「仕事観」に焦点を当てて作られたのが本作品です。

3/21(土) 会場：**一橋講堂** 後援 **千代田区** 参加費 **1,500円**

受付/開場：**13時30分** 〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学生 障がい者1,000円/高校生以下無料
開演：**14時00分** 終了：16時30分 当日受付先着 **500名** *千代田区民在住の方は300円引き

上映後、**佐高信氏**講演『中村哲という希望-日本国憲法を実行した男』

佐高信の隠し味



1945年、山形県酒田市生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。高校教師、経済誌編集長を経て、評論家となる。主な著書に、『佐高信評伝選(全7巻)』『佐高信の徹底抗戦』『竹中平蔵への退場勧告』『佐藤優というタブー』『当世好き嫌い人物事典』『統一教会と創価学会』『玉木、立花、斎藤、石丸の正体』(以上、旬報社)、『時代を撃つノンフィクション100』『企業と経済を読み解く小説50』(以上、岩波新書)、『この国の危機の正体(望月衣塑子との共著)』『お笑い維新劇場(西谷文和との共著)』『だまされない力』(前川喜平との共著)(以上、平凡社新書)、『統一教会と改憲・自民党』(作品社)、『国権と民権(早野透との共著)』『反戦川柳人鶴彬の獄死』『石橋湛山を語る(田中秀征との共著)』(以上、集英社新書)、『昭和20年生まれ25人の気骨』(日刊現代)『反-憲法改正論』(角川新書)など多数。近著に『中村哲という希望-日本国憲法を実行した男』(旬報社)

主催・問い合わせ：一般社団法人 日本社会連帯機構 担当：酒見 (☎090-4749-2705) *受付時間平日10:00~17:00